

理 由 書

須坂地区は、江戸期に須坂藩の陣屋がおかれ、谷街道と大笹街道の2本の街道が交わる交通の要衝として町場が形成されており、古くから物資の集積地として栄えた。特に、明治、大正期には製糸業によって繁栄を遂げており、富の集積による豪壮な民家も数多く建てられ、その多くが現代においても須坂地区の町並みを形成している。街道沿いには土壁の中塗り仕上げや白漆喰仕上げの土蔵造りが多く建ち並び、街道の裏には当時の繁栄を支えた人々の住まいとして建てられた長屋群も現存する。

これらの町並み保存は昭和60年頃から始まり、様々な事業により保存が進められた一方で、当時確認された伝統的建造物が平成22年頃には約半数まで取り壊されていることが明らかになるなど、伝統的建造物の保存がより深刻な課題となっていた。そこで、須坂地区の町並みを再度評価し町並みの保存を進めるため、平成29年度から令和元年度にかけて調査が実施され、結果については「須坂－伝統的建造物群保存対策調査報告書－」において、その歴史的価値が高く評価されている。

また、第六次須坂市総合計画（基本構想・前期基本計画）においては、減少が進む歴史的建造物の保存・活用を進める為、重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けた取組みを市民とともに進めることとしている。

以上のことから、須坂地区の伝統的建造物群を形成する環境を保存するため、須坂市須坂伝統的建造物群保存地区を決定する。

なお、都市計画決定後は、須坂市伝統的建造物群保存地区保存条例（令和3年7月施行）及び、現在策定中の保存活用計画に基づき、現状変更の規制、その他保存のために必要な措置を定め、本保存地区の歴史的風致の維持・向上と活性化を図るものとする。